

第四
衣糧
事項

0375

其一 一般事項

一 補給ノ要領

中支那派遣軍占領地内ニハ兵站線トシテ揚
子江ノ大幹線ヲ有スルカ故ニ内地ヨリノ追
送品ハ極力上海南京地區ニ於ケル積換^{ハ勞}ヲ避
ケ前方軍補給廠ヘ直送スルコトニ努メアリ
從ツテ中支那派遣軍隸下ノ第八野戰衣糧廠
ハ本來^{集積地}補給廠トシテノ業務ヲ輕減シ
唯主トシテ船繰リノ都合上上海南京地區ニ
揚陸セラレタル前方軍用軍需品ノ再送船舶

ノ直送ニ依リ生シタル跛行軍需品ノ調節後
方地帯ニ於テ調弁セル現地資源ノ補給ニ任
シツ、アル所ナリ然レ共長江ノ減水期ニ至
レハ大海航路ノ船舶ハ蕪湖ヨリ上流ニハ上
航シ得サルニ至ルカ故ニ此ノ間ハ全ク本來
ノ基地補給廠ノ姿ニ還元スルニ至ル
而シテ第八野戦衣糧廠ハ前述ノ如キ業務ノ
外南京本廠ハ鎮江（不含）以西安慶地區迄
又上海支廠ハ鎮江杭州以東ニ於ケル軍直轄
兵團並一部ノ軍直部隊ニ對スル直接補給ヲ

0377

担任シアリ

二補給方式

從來糧秣及常續補給ニ属スル衣糧諸品ハ推
進補給ノ形式ヲ採用シアリシカ物資ノ偏在
死藏ヲ予防シ軍需品ノ活用特ニ之等軍需品
ニ對スル各部隊ノ関心ヲ高ムル爲六月十日
作命丁第二九五號ニ依リ總ヘテ請求補充ノ
形式ニ改メ以テ予算制度ニ膚接シ圓滿ナル
補給ノ實施ヲ期シツ、アリ

三揚子江減水ニ伴フ衣糧諸品ノ繰上前送

0378

揚子江例年冬期減氷期間蕪湖以西ハ概ネ四乃至
五百噸以上ノ船舶ノ航行不可能トナルヲ以テ
末年三月迄ニ要スル第十一軍並第百十六師團
用糧秣其他軍需品ハ概十一月中旬頃迄ニ集積
ヲ完了スル如ク中央部ニ要求シ其協力ヲ得テ
目下實施中ニシテ之カ前送ヲ要スル經理關係
軍需品ノミニテモ日々一萬噸級ノ船舶一隻宛
ヲ南京地區ヲ通過發船セシムルヲ要スル狀況
ナリ

四 給養兵額

七月末ニ於ケル中支那派遣軍、給養兵額ハ人
一七、五八師團馬一、一四師團ニシテ其詳細附
録第二十四、如シ

五、野戦衣糧廠、配置

中支那派遣軍及第十一軍隷下ノ野戦衣糧廠、
配置並補給系統、概要附録第二五、如シ
而シテ第八野戦衣糧廠中特ニ各出張所、主要
ナル業務ヲ掲ケレハ次、如シ

ノ 蕪湖出張所

ノ 蕪湖地區淮南沿線へ、補給

只 減水期ニ於ケル軍需品ノ積換轉送

2. 蚌埠出張所

1. 蚌埠地區ニ對スル補給

ロ 石炭、受領轉送

ハ 軍需輕工業材料（主トシテ皮革）ノ検査

受領還送

ニ 生牛大麦類、調辨

3. 浦口出張所

1. 津浦線地區へ、補給

只 津浦線ヨリ南下軍需品ノ処理

0381

ハ減水期ニ於ケル軍需品ノ積換轉送

イ鎮江出張所

ニ鎮江地區ニ對スル補給

ロ干草、大麦、薪等ノ調弁

ハ減水期軍需品ノ積換轉送

六物資蒐集部ノ運用

抗日意識旺盛ニシテ遊撃戰敢行セラル、敵地
ノ作戰ニシテ而モ軍ノ占據地ハ恰モ点ト線ナ
リト稱セラル、現況ニ在リテハ物資蒐集部ノ
如キ自衛力少キヲ、ヲ獨立ニシテ物資豊富ナル

遠隔ノ地ニ派遣シ蒐集ニ任セシムルハ不可
能ニ屬シ結局軍ノ勢力下即チ野戦衣糧廠ノ成
カヲ及ホシ得ル範圍ニ過キサルト輸送力ノ輕
減トヲ圖ル爲之ヲ前方軍ニ軍ハ之ヲ野戦衣糧
廠ニ配屬シテ其強化ヲ圖リ相當ノ成果ヲ擧ケ
ツ、アル所ナリ

七、第八野戦衣糧廠ノ永久施設

第八野戦衣糧廠ハ貨物廠ニ改編セラレ、場合
ヲ顧慮シ上海ハ江湾附近ト吳淞及砲台棧橋ニ
又南京ハ城内北部ト下関ニ倉庫並諸工場等ヲ

0383

集結シテ構築スヘク計画シ逐次實施中（但シ
南京ハ當分、間既設建物ヲ極力利用ス）ニシ
テ概テ次、如キ状況ニ在リ而シテ蕪湖浦口鎮
江蚌埠出張所ハ主トシテ在末、建物ヲ利用シ
予備集積ニ充ツル予定ナリ

(一) 倉庫施設

人丸記軍需品ヲ集積シ得ルヲ目標トシ計画

建設中ナリ

糧秣

約六百師團分

被服

約六師團分

消耗品類 約二十師團ノ二ヶ月分

酒保品 約二十師團ノ一ヶ月分

恤兵品其他 若干

ニ 集積比率

上海 三、 南京 一、ノ比トス

(二) 工場施設

ノ 糧秣関係工場

現地自給自足ノ方針、下ニ現在次ノ如ク

食品ノ製造補給ヲナサシメアリテ其成績

概不良好ナリ之ニ要スル諸原料ハ特別ノ

又、ヲ除ク外凡テ現地物資ニ依リアリ

イ 甘味品工場

現在南京ニ在リテハ九記品種数量ヲ日々
製造シ加給品並酒保品トシテ蕪湖蚌埠鎮
江ニ亘ル間ニ又上海ニ在リテハ食パンノ
一部ヲ製造シ上海駐屯部隊ニ補給ヲナシ
アリ

九 記

生麴	二〇〇〇食	甘味品	三二〇〇〇食
餛飩	二〇〇〇食	豆腐	一五〇〇丁

只 釀造工場經營

昨年二月以來上海ニ於テ味増醬油工場ヲ
經營シ現在味増日産一万五千升（約八師
團分）及醬油七百立生産補給シアリ醬油
ハ將末日産一〇〇〇立（五師團分）ヲ
生産スル如ク目下計畫中ナリ

八 屠場經營

衣糧廠ヲシテ屠場ヲ經營セシメアリテ現
在屠殺能力南京一日牛三〇頭豚一〇〇頭
ニシテ南京及附近部隊ニ補給シアリ上海

ニ於テハ工部局屠場ヲ借受（借上料ハ臟物、拂下代ニテ相殺ス）請負式ニ依リ屠殺シアリ作業カ牛ニ〇〇頭豚三〇〇頭ナリ共ニ冷凍設備ヲ完備シアリ

ニ「サイタ」工場

上海ニ於ケル敵産工場ヲ押收シ大日本ヒール株式会社ニ委託經營セシメ本年九月以降生産ヲ見ル予定ナリ

ホ製氷工場

九記、如ク自管又ハ委託經營ヲ行ヒ其需

0388

要ヲ充足シアリ

地 區	經營方式	日生産量	摘 要
上 海	委託經營	三〇屯	工場ハ敵産トス
南 京	自 營	一五〇	工場ハ個人所有トス
蕪 湖	專用	二〇	工場ハ個人所有トス
蚌 埠	自 營	二〇	追送製氷機トシ近開始ス

ハ
干草工場

南京工場ハ目下構築中又上海ハ測量設計
 中ニシテ今年度ハ一年間上海一〇、〇〇〇
 屯鎮江一〇、〇〇〇屯南京三〇、〇〇〇屯ヲ加
 エシ得ルヲ自途シテ建設シアリ

又 被服工場

六個師團分、兵力ヨリ生スル要修理被服
品ノ修理ニ應ニ得ル能力ヲ有シアリテ南
京四、上海二、比ノ能力ヲ有シ南京ニ在リ
テハ主トシテ現地工具及野戦工具類ヲ利
用シ自下日々夏衣袴ニ七五〇着又ハ夏襦
袢^{袴下}三五〇〇着軍靴一八〇〇足防毒面五百
個ノ修理能力ヲ有ス又洗濯ニ在リテ一日
夏衣袴ニ在リテハ一七五〇着襦袢袴下ニ
在リテハ六〇〇〇着防水染色ノ加工ニ在

リテハハハロロ着ヲナシ得ルノ能力ヲ有
シアリ上海ニ於ケル作業能力ハ近ク概テ
南京ノ能力ノ半ニ達スル如ク施設ヲ見ツ
ツアリ

3. 木工場

目下食品ノ配給ニ要スル箱類ノ全部ヲ生
産シ余カヲ以テ若干ノ陣營具ヲ製作シア
リ

八、軍農場ノ經營

昨年五月台灣各州ヨリ農業義勇團一千名ヲ招

致シテ上海南京漢口ニ軍農場ヲ開設シ野菜ヲ栽培補給シツ、アリテ昨年度ノ收穫南京農場十一万畝上海農場ニ四四万畝計ニ五五万畝ニ達シ其成績概ニ良好ナリ該團員ハ既ニ契約期間一年ヲ経過セシヲ以テ目下其大部ヲ新義勇團員六ニ〇名ト交代中ナリ尚今回ハ人員ヲ七五〇名ニ減シ一部現地苦力ヲ使用スル方針ニシテ又安慶ニモ新農場ヲ開設スルコト、セリ

九、現地物資利用率

八、糧秣

九

0392

現地自給自足ノ方針、下ニ極力現地物資
ノ利用ヲ圖ル如ク努メアルモ未タ各種産
業復興スルニ至ラサル爲所望ノ域ニ達セ
サルモノ多シ

イ米麦ハ現在十分、ニヲ目標トシテ其大部
ハ衣糧廠ヲシテ調弁セシメアリ產地ハ大
湖平地トヲ中心トスル地域ニシテ將來治
安確立ニ伴ヒ新米出廻リ期ヲ利用シ軍所
要ノ全量ヲ玄米ニテ調達シ補給スル予定
ナリ

0393

ロ、肉類ハ其十分ノ七ヲ現地資源ニ依リ衣糧
廠及各部隊ヲシテ各々其半部ヲ調達セシ
メアリ
ハ野菜類ハ其大部ヲ各兵團及各部隊ヲシテ
調達セシメアリ
ニ調味品ニ就テハ第四ノ其一、六ノ(二)ノ(ロ)
項ニ於テ述フル所ノ外各兵團及補給廠ニ
於テモ警備態勢稜行ニ伴ヒ漸次自營スル
如ク慇懃シアリテ漸次自給率向上スルニ
ト信ス

0394

木馬糧中濃厚飼料ニ就テ八十分ノ五ヲ目標
トシテ調達シアルモ大麦ハ其半部以上ノ
調達ハ困難ニシテ残部ハ麩其他ノ代用品
ヲ利用シ大麦麩類一大部ハ主トシテ衣糧
廠ニ於テ其他ハ各兵團及部隊ヲシテ調弁
セシメアリ
ハ干草ハ八割以上ヲ現資ニ依リ各兵團部隊
ヲシテ調弁セシメ藁ハ全量ヲ各部隊ニ於
テ調弁セシメアリ

ふ 被服

0395

綿製品

綿製品ハ現地産綿布類ヲ利用スルニ於テ
ハ軍需用ノ大部ヲ充足シ得ルニ縫製其他
ノ關係上現在迄ノ利用状況次ノ如シ

夏襦袢袴下 十三万組 年所要量ノ $\frac{1}{5}$

敷布 三十万枚 全量

枕皮(覆共) 三十万枚 全量

雨外套 二十万个 全量

蒲團覆 二十万枚 $\frac{1}{2}$

真綿₄ヨツキ 十万枚 全量

蒲

團

五十万个

全量

ロ 皮革製品

皮革製品ハ利用シ得ヘキ邦系ノ大工場ナ
キト各種ノ事情存スルヲ以テ未タ現地品
ヲ利用セス蒐集セル原皮ハ攀ケテ内地ニ
還送シアルモ指導宜シキヲ得レハ近キ將
来所要ノ全量ヲ得ルコト容易ナリ

ハ 洗濯石鹼

上海及南京ノ製産高ニテ軍需用ヲ充足シ
得ルヲ以テ將來ハ全量現地産ニ據ル計畫

0397

十リ

利用状況

四十五万解

三ヶ月分

3. 物品

イ. 陣營具及宿舍家具

現在迄、所要陣營具及宿舍家具大部ハ押
收品ヲ利用シ其不足ハ現地材料ヲ以テ製
作シ末リタルニ現地材料僅少ナルヲ以テ
將來大量調弁ノ場合ハ材料ノミ内地追送
ヲ仰キ製作ハ支那人ヲシテナサシムル計

画十リ

ロ、防疫用石灰

防疫用石炭ハ將來全量現地産ノモノヲ利
用スル計画ナリ

燃料

中支那ニ於ケル燃料、供給力ハ極メ乏シク
本年初頭以來大イニ画策實行シツ、アル所ナ
リ就中石炭ハ現在淮南炭坑年産二〇万吨ナル
又之カ利用率ハ輸送力、關係上其半ニ過キス
其他長興下蜀等、炭坑又呂集團作戰地域内ニ

0399

於テハ蒲圻仙人山炭坑等ノ復旧ニ努メツ、ア
ルモ末々謂フニ足ラス從ツテ七月以降去年三
月迄ノ軍所要量ノ約七割ニ三万吨ヲ北支ヨリ
供給ヲ受ケアル状況ナリ從來直接軍用ニアラ
サル華中鐵道用水道電氣用燃料ニ就テモ準軍
用トシテ軍ニ於テ其供給ヲ斡旋シアリシ又本
年六月以降之等ノ大部ハ攀ケテ華中連絡部ニ
移管スルコト、セリ
尚石炭ハ供給力小ナルノミナラス輸送力ニ就
テモ十分ナラス北支ヨリ追送量中各其半部ヲ

津浦線ト青島積出ノ船舶ニ依リアルモ鉄道ハ
其最大能力ヲ利用シアルト揚子江ノ減水期ヲ
目前ニ控ヘ船舶ノ配當所望ノ域ニ達セサルト
ニヨリ燃料ノ第一線兵團ヘ、円満ナル補給ニ
就テハ頗ル苦慮シアル所ニシテ之ヲ緩和セシ
カ為燃料ノ節用木炭ノ自營製造等ヲ強調指導
シアル所ニシテ本年度ハ概ネ所望ノ如ク順調
ニ補給シ得ル予定ナリ。
土敵ノ謀略ニ對スル施設[×]
最近敵ノ企圖シアリト判断セララル、謀略戰即

今後ハ正力戦（正規ノ作戰）ハ勿論大規模
ノ遊撃戰逐行スラ困難ニシテ思想宣傳戰政治
經者上ノ謀略ヲ主トスル所謂特務戰的段階ニ
入り漸ク不詳事ノ頻發ヲ見極メテ憂慮スヘキ
状態ニ入レルヲ以テ之ニ對應スル經理上ノ施
策ニ就キ遺憾ナキヲ期スル如ク附録第二五三如
ク各部隊經理當事者ノ注意ヲ喚起シ指導シア
ル所ニシテ幸軍ニ於テハ未タ大事件ノ發生ヲ
見サルハ企慶ニ堪ヘサル所ナリ

其刑務所ノ勞力利用

0402

刑務所入所者、保健上並遊死勞力活用、見地
ヨリ目下各關係機關ニ連繫シ之カ利用ニ付研
究方督促中ナリ

其二 糧秣

一 糧秣ノ保有狀況

七月二十日全軍野戰衣糧廠ノ保有糧秣ノ詳細

ハ附録第二十六ノ如ク主食七七九、携乙一七九、副食

四一、調味品一、二、七、五、馬糧一、三、三、師團分ニシ

テ補給上支障ナキ状態ニアリ

二 予備糧秣